



発行所 東京薬科大学 新聞会
責任者 三川祐政
新聞会意見集
新御意大募

さらば単科大学

百十一年に及ぶ東京薬科大学の「単科」の歴史に終符を打たんとする
新学部「生命科学部」。今まで知らされていなかった生命科学部とはいっ
たようなものだろうか。

東京薬科大学は東京薬師専門学校として創立された一八八〇年以來、薬学部のみの単科大学として発展し続けて現在に至つた。しかし、新しい新学部開校という計画が平成六年四月開校を目指してほぼ実現的な話として進められている。そこで今回は、常務理事である宮崎先生に新学部の具体的内容についていろいろ伺つた。

一、新学部設立の経緯と目的
宮崎先生は新学部設立の経緯について、「八王子に移転した当時から何やかやといふことは考えていて、将来の計画案に新学部の話はかなり前からあった。そして時代のニーズにのって今、具体化の方向に進められている」と語つた。また目的については、「本学の方針は量というよりは質を重視している。基礎学問の充実が現在の東薬の目的の一つだ」と述べられた。突然浮上したような計画と誤解されがちだが、実は着々と推進されてきた計画だといふことが明らかになった。

二、新学部名称、定員、校舎について
まず新学部の名称は生命科学部(仮称)で、学科は生命科学科(仮称)と環境科学科(仮称)に分けられる。収容定員は各学科三百二十名で男女共学となる。また専任教員は十六名で助手十六名を含めて計三十二名となる。校舎は六月二十五日に起工式が行われ、実験動物棟と教育三号館の間の駐車場のある場所の地下二階、地上十一階の研究三号棟が建設される予定である。この研究三号棟には新学部の研究室が入ることになる。また、教育三号館G階は新学部の実習室に改装される。講義室は増設せず、今ある講義室を使つていくようにである。

三、授業内容、カリキュラム
授業の内容について宮崎先生は「一、二年生では薬学部とほとんど同じような授業内容となり、三年生では各学科に別れ、四年生で研究室に入るように考えている。生命科学科では分子細胞レベルの生命科学やバイオテクノロジーの分野を扱い、環境科学科では生物を原点とした環境問題などを扱う予定である」と述べられた。また実際に講義をする教授や講師の獲得については「理化学部、農学部、薬学部など理系のあらゆる先生を呼ぶ予定である。また国際化に向けて専任の英語の先生も新たに呼ぶつもりだ」と述べられた。

四、学費、取得できる資格について
学費についてはまだ詳しいことは決めていないようだが、学内連絡会議において大学側はあまり高額にならないようにする姿勢を見せた。取得できる資格についても詳しいことはまだ未定だが、薬剤師国家試験受験資格が取れないことははっきりしている。

五、大学名について
宮崎先生は「英語名は変わるだろうと思うが、東京薬科大学という名前は変えたくないと述べられた。また学内連絡会議においても大学側は現在の名前に誇りや愛着を持っていてるので文部省の要請があつても変えるつもりはないという意志を表明した。

六、新学部が薬学部に与える影響について
同じ構内に二つの学部が存在するのだから互いに少なからず影響を与え合うだろう。この点について宮崎先生は、「新学部増設に伴い基礎学問が充実し、またお互いの研究成果が双方の研究向上にさらさら拍車をかけるだろう」と述べられた。

七、将来の展望について
六月二十四日に行われた学内連絡会議では執行委員長を中心に学生側から実に多くの質問が出た。以下に挙げるのはこの連絡会の中で最も時間を費やして質疑応答が繰り返された二つの問題である。一つは新学部増設の正式な報告が学生に無かつたのは何故かという問題である。これはに対する回答は学部の増設の承認を出す文部省の最終審査はまだ済んでいないという事実(つまり最悪の場合、新学部増設の計画が無効になる)ともあり得るので「学生にこの時点で伝えるべきか迷い、

光と影の異空間
『エルミタージュ美術館展』
「長い人生における悲しみや苦しみを静かに、しかし痛切に物語る。二人が生きてきた人生すべてをレンブラントはこの絵の中に描き出しているのだ。レンブラント・ファン・レイン。言うまでもなくパロク期オランダ絵画の巨匠である。彼の絵の前を無関心のまま素通りする人などあるだろうか。」

彼らの作品は豪華、絢爛、荘重、威厳などパロク期の絵画の特徴をのびりと鮮やかに示すものである。鮮やかな色彩で見る者を圧倒した大きな絵は見る者を圧倒させるおかない。フランソワ・ジュヴェル以上のようなオランダ・フランスの絵画の他にも世界的な名声を得ているレンブラントのエッチングが多数展示されるなど見どころ多い「エルミタージュ美術館展」は、池袋の東武美術館にて八月十八日まで開催。ぜひ御覧あれ。

★ジャズの人気再び盛り上がりつつある。ナベサダと渡辺貞夫のコンサートは毎回好評で、ニューヨークでの彼のコンサートなどはチケットを手に入れたとする若者が行列を作つていると聞く。ジャズと聞くとも古くさいイメージしか持っていなかった若者の間に、これほどの人気が出るとは誰が想像しえただろう★彼らの音楽は聞いていると実に明るく、思わすほど軽快だ。セントルイス・ブルーから感じるあの重たく、魂の底からこみ上げてくるような強烈なイメージしか持っていなかった僕のは、これが本当にジャズののだろうか。と少し面食らってしまった。軽いジョウジのジャズ。だからジャズもが、気軽に入りこんでいるのだらう★よくよく考えてみると、我が「軽さ」にひかれることはよくあることだ。最近は一「軽さ」を売りにした商品もヒットを得ている。例えばタバコは、今や軽さの時代であると言ふ。なるほど販売する側は軽さの美点を歌い上げ、人々もすすんでそれらのタバコを手に入れている。「屋間でもビールが飲めます」の宣伝文句である。あるいは、あるビールが、ライトビールの人気もなかなか高いらしい★今、なぜこんな商品が売れるのか。前に挙げたビールの例ではダイエットのブームの影響も考えられるだろう。このように、こうしたヒット商品の真は流行が隠されていく。しばしばある大孤立化が進む現代において、他人と同じく燃焼して楽しむこと、自分が社会の一員であるという一種の安心感を得ようとする人々が流行に躍らされる危険性も秘めていることである。ただ、流行の中には無意味に人々を惑わすだけのものもある反面、それが新しい文化を形成するものもある。若者の間に広まってきたジャズの人気がいつまで続くのだろうか。(バリ挑戦獲得)

学内連絡会議

学内連絡会議
今に至つてしまつたということだ。しかし学生はたとえその計画がまだ草案の段階であっても情報を知りたいと思つている。なぜならそれは計画の影響を少なからず受ける学生に正当な権利があるからである。今回の理事会のやり方は学生のような権利を十分に尊重しきれない気がしたと充ちえるだろう。一つは、新学部の創設に伴う学生の増加が大学生生活に支障を及ぼすことが予想されるか、その対策はどうなつていくか、という問題である。これは食堂、バス、駐車場の

学内展
皆さんは御存知だろうか?六月二十七日から、旧話室において華道部、やまひのクラブ、美術部、写真部の四つの芸術関係団体による学内展が行われている。そこで担当する今回の学内展の見所について伺つたが、その文章は今回の学内展に対する並々ならぬ意気込みを感じさせた。
「華やかな華道の生け花部長の気合いの強いやまひのクラブ初のパステル画展」
「挑戦に燃える美術部モノトーン」
「命を賭ける写真部芸術関係の四つの部が今、熱い!」
この通り各参加団体の意気込みは、私たちを十分期待させてくれるものである。この学内展は、東薬の私達のご身近な所で生まれた文化に触れる良い機会である。この展示会は七月四日まで行われている。試験も近く忙しい時期ではあるが、是非一度覗いてみることをお勧めする。決して損がない事は四団体の保証付きである。

薬味
★ジャズの人気再び盛り上がりつつある。ナベサダと渡辺貞夫のコンサートは毎回好評で、ニューヨークでの彼のコンサートなどはチケットを手に入れたとする若者が行列を作つていると聞く。ジャズと聞くとも古くさいイメージしか持っていなかった若者の間に、これほどの人気が出るとは誰が想像しえただろう★彼らの音楽は聞いていると実に明るく、思わすほど軽快だ。セントルイス・ブルーから感じるあの重たく、魂の底からこみ上げてくるような強烈なイメージしか持っていなかった僕のは、これが本当にジャズののだろうか。と少し面食らってしまった。軽いジョウジのジャズ。だからジャズもが、気軽に入りこんでいるのだらう★よくよく考えてみると、我が「軽さ」にひかれることはよくあることだ。最近は一「軽さ」を売りにした商品もヒットを得ている。例えばタバコは、今や軽さの時代であると言ふ。なるほど販売する側は軽さの美点を歌い上げ、人々もすすんでそれらのタバコを手に入れている。「屋間でもビールが飲めます」の宣伝文句である。あるいは、あるビールが、ライトビールの人気もなかなか高いらしい★今、なぜこんな商品が売れるのか。前に挙げたビールの例ではダイエットのブームの影響も考えられるだろう。このように、こうしたヒット商品の真は流行が隠されていく。しばしばある大孤立化が進む現代において、他人と同じく燃焼して楽しむこと、自分が社会の一員であるという一種の安心感を得ようとする人々が流行に躍らされる危険性も秘めていることである。ただ、流行の中には無意味に人々を惑わすだけのものもある反面、それが新しい文化を形成するものもある。若者の間に広まってきたジャズの人気がいつまで続くのだろうか。(バリ挑戦獲得)

# 前期学生大会

## 議案書の全貌を

### 今ここに一挙公開

平成四年度前期学生大会が七月一日に開催される。新聞会では今回提出が予定されている議案について、一足早くその内容を紹介します。

今年度前期学生大会の議案書の内容は以下の通り。

一、所信表明  
本学学生自治会の最高執行機関である執行委員会では、大学との直接交渉、掲示物及び発行物等の事務処理、学生駐車場や部室棟の管理、そして学生自治会の最高議決機関である「学生大会」を行って活動を通して学生の意見に基づいていく所存である。

二、大学側の示す将来計画案について  
先日、大学側より本学の将来計画案が示された。概要は以下の通りである。概要は本学の伝統を尊重し、薬学の更なる充実発展を推進するために大学院の拡充を実施すると共に、薬学関連領域への拡大を図りたい。そのため、本学に新学部を創設し、平成六年四月開設を実現したい。尚、これに伴い研究三号棟の建設も企及する。

・新学部の創設  
名称は生命科学部。生命科学「バイオ・酵素その他」と環境科学科「大気・水・生活環境」に分かれる。

・研究三号棟  
将来計画実現のため研究施設の増強を行う。工事は前期後期に分かれる。

・前期工事  
床面積二〇〇坪、地下一階地上十一階、計十二階延べ一四四〇坪

・後期工事  
本体の増設工事

尚、前期工事の予算総額は二六億七四〇〇万円となる。

・大学院の拡充  
平成十年度二〇〇名、平成十一年度二〇〇名、平成十二年度二〇〇名、平成十三年度二〇〇名、平成十四年度二〇〇名、平成十五年度二〇〇名、平成十六年度二〇〇名、平成十七年度二〇〇名、平成十八年度二〇〇名、平成十九年度二〇〇名、平成二十年度二〇〇名

・化学等の他学生も募集する  
・平成十年度における収容学生数  
約二〇〇名  
大学院生 約一九六〇名  
薬学部学生 約六四〇名  
生命科学部学生 計二八〇〇名

三、駐車場問題  
現在学部学生駐車場(通称百台駐車場)となつて開通場所が本来の道路として開通することになった。現在使われている駐車場は道路が開通するまでの仮の駐車場であるが、我々学生にとって絶対に必要なものである。

四、自治委員会  
自治委員会は、一般自治会員すなわち全学生と自治会を直接つなぐ委員会として、学生の立場に立った活動を広げたいと考えている。現在取り組んでいる活動としては次のようなものがある。

五、新聞会  
今回、より良い新聞を目指して「御意見箱」を設置することになった。学生からの意見を取り入れてこれまでに以上に充実した新聞をつくってきたい。

六、東薬祭運営委員会  
今年度の東薬祭は十一月一日(日)・四日(水)に開催し、前夜祭・中夜祭・後夜祭・音楽祭(Fairer・cherry lid)・特別企画・スペシャルオリエンテーリング等を企画している。

七、体育祭特別委員会  
体育祭の目的は、これを通して個人またはクラブ間の親睦を深めることである。今年度は十月十四日(水)の開催を予定している。

八、平成三年度決算報告  
九、平成四年度予算案

今回の議案の中で本学学生連がもっとも関心を持つのはやはり新学部の創設、そして身近な駐車場問題だろう。不明瞭な点、不確かな点が多く質問・集中すると思われる。昨年度の学生大会で物議をかもしたクラブ活動の問題についても、うやむやに済ませ

## 薬学部授業体制見直しへ

本学では年々、社会全体のニーズに応えるべくカリキュラムの変更が行われてきた。本年度はカリキュラムの大綱化の実現を目指し、学生が柔軟に選択科目を履修できるように授業実技が自由選択化し、集中授業という形になった。そこで教務部長の山田教授は今後、履修方法の変更点を伺ったところ、以下のような回答を得た。

問(百点満点)を出題し、次いで二回目、三回目(ともに二百点満点)を従来通りに行う(合計五百点満点)。合格は国試に準拠し六割を原則とするが、詳細は教授会で決定する。山田教授は「国試合格は学部最低要件であるから、四年生にはどんな問題が出題されても動くことのない基礎学力をつけて卒業してもらいたい。それには低学年のときからしっかりとやる必要がある」と語った。

卒業について  
卒業二回だった卒業試験が本年度より三回になる。これは国試の合格率の低下を受けたもので、具体的に四年次修了判定を一月中旬から十二月末に早期、第一回の卒業試験は過去の国試の問題から二百

人が歌うことが好きだ。嬉しきあまのり人ほどこかで聞いた歌を口ずさんだり、時にはその場で作詞作曲までやったり自分の気持ち表現したりする。そんな、歌うのも好きな人が集まってきた。それが東京薬科大学合唱団だ。定期演奏会が六月十四日港区芝公園にある朝日放送ABC会館ホールで行われた。合唱団の広さがあったが午後六時の開演前にはすでにうとする意図が見えかくれしている。学生は一日も早くはっきりした回答を求めているのだ。いつまでも先延ばしにしては行かないだろう。

満員になってしまった。一着が聞き最初流れたのは「東京薬科大学校歌」。この歌は大きな期待に胸を膨らませて入式に望んだあの頃の自分を思い出させてくれる。それさえあれば、歌ったのもいい。この合唱団は、庄厳な歌声で観客を魅了した宗教合唱、古き良き開拓時代のアメリカを連想させるフォスターの名曲の数々など、このよさなジャズやクラシックの多様な取り合わせとなつていった。しかし何となく、四十年前の人間が一度に歌う混成合唱組曲「武蔵野」は圧巻だった。拍手はいつまでもなやまなかった。

### 行事予定

七月一日	前期学生大会
七月十五日	前期授業終了
七月二十一日	前期試験
八月一日	夏期休暇開始
八月十六日	後期授業開始

### 生協まつり

去る六月二十三日から二十七日まで、生協まつりが行われた。このイベントは七月一日の生協設立の日を祝して行われるものである。今年が東薬大生協設立二十周年に当たることでもあつて実行委員会の意気込みも大きく、彼らの努力の甲斐あつてなかなか盛況なものになつていと思う。

### 編集後記

△いつの時代も子供達は海賊に憧れる。小説「宝島」の一本足のシルバード、小さなバイキング、ピッケトとその仲間達、そして「ビーター」のフック船長! という訳で映画「フック船長!」に行ってきた。実に面白かつたのだが、気がかりが一つ。〇〇学の追記だ。恨むぞ〇〇先生!(すたいなあず)

☆今回はものすごく大変だったねえ、みんな!とところで最後はみんな他人の担当記事を書いていた。なぜなんだ? うん、とにかくどうでも良かった。これからは勉強に励むことができる。ああ嬉しいことだ。おつかれさま!とこれに力添えするぞう! それにしても一行は長いよ! とにかく、おつかれさま! (姫)